

全寮制 青山高校

不登校教育 REPORT 11

～高校から不登校になってしまったら～

INDEX

- ・中学時代とワケが違う……………1
- ・高校が楽しくない……………2
- ・不登校生徒の共通点……………3
- ・保護者ができること……………5
- ・本人を動かそう……………6
- ・転校を考えたら……………7
- ・再び不登校にならないために…8
- ・不登校体験記……………9

高校から不登校になってしまったら

毎年6月ごろになると青山高校に問い合わせの電話がかかります。その内容の多くが「今から転校できませんか？」というお電話です。文部科学省の統計によると高校生の不登校は5万人近くになります。本校の不登校教育チームが「高校不登校とその問題」について調査研究したことをまとめました。

1：中学時代とワケが違う

・高校は授業日数 1/3 が目安

中学校と違い、高校は単位制となり単位を取ることで進級・卒業ができます。つまり欠席が増えて単位が認定されないと落第・退学となります。この部分が中学校との大きな違いで、中学は義務教育のため長期欠席者でも卒業をさせてくれますが、普通科高校ではそのようなシステムがありません。

それゆえ、欠席が増えてくると担任の先生から「単位があぶない、このままだと落第です。」という話をされるようになります。その目安が授業日数の1/3となる**欠席 60日**です。高校入学して5月頃から欠席が増えてくると、1学期の終わり頃の保護者懇談で「もう危ない」という発言が担任の先生から出てくるはずです。

・子どもを動かすことが難しくなる

もし高校2年生で不登校なったとすると17歳、もう大人です。かなり分別がつく年頃になるので、無理矢理連れて行ったり甘い言葉で誘っても「これは親の作戦だ」と簡単に気づいてしまいます。また、ある程度社会のことがわかっているので高校通学以外の選択肢についても認識をしています。アルバイトをしたり小中学時代の友達と遊んで時間をつぶしたりするようになることもあります。家にいることが少なくなっていくと親が働きかけることも難しくなるでしょう。

・オンラインゲームに注意

インドア派の子どもの場合、不登校からオンラインゲームにはまり出すようなケースも多く見られます。オンラインゲームに依存すると昼夜逆転がはじまります。オンラインゲームのゴールデンタイムは深夜帯なので、深夜に活動して昼間は寝るという生活になり、より学校復帰が難しくなります。

また、オンライン上で他のプレイヤーとコミュニケーションを取ることが増えると、ネットの友人やコミュニティーに参加するようになって、親のコントロールから外れていく傾向も見られます。中には、賞金が出るようなオンラインゲーム大会に参加をしてその味をしめると、現実社会生活への復帰も困難となります。

つまり、高校の不登校は**2ヶ月以上続くと危険**信号であると言えます。すぐに動きましょう。



2、高校が楽しくない

高校から不登校になる生徒のパターンはいくつか見られます。ここでは代表的な3つのパターンを紹介します。なかには、2つ以上のパターンを掛け合わせている生徒もいます。

①中学不登校からの継続

中学校時に不登校であったが、なんとか受験だけをして高校進学することができた。4月までは登校できたが、だんだん休みが増えてきて不登校状態に戻ってしまったというパターンです。本人の中で、心が成長しきらないまま「環境が変わればなんとかなる」という期待で高校に入学をすることができたが、結局変わらないというタイプでもあります。私たちからすると、いくら高校に通学しても「家庭環境・親子関係」に変化がないと不登校の本質的な問題は解決しないと考えています。

②高校でのトラブル

高校入学後に、いじめ等のトラブルがあり上手く処理を仕切れなかった時に不登校状態になってしまうパターンです。新しく入った部活がとても厳しくて、先輩やコーチのプレッシャーから潰れてしまう生徒もいます。中学の時と雰囲気が違いすぎてついていけない子もいます。

③友達がいらない

さまざまな理由で、入学した高校に馴染めなかったというパターンです。私たちの経験上、**気の合う友達ができなかった時**に起こりやすいと考えています。気の合う友達ができることで、学校の愚痴をお互いに言い合ってストレス発散したり、学校から離れた場所で遊んだりすることでリフレッシュすることができます。

④環境の変化

・公立中学→進学校「授業が合わない」

進学校の厳しい雰囲気が合わなかったり、グループワークなどの先進的な学習スタイルに戸惑って楽しさを感じないことがあります。高校受験をクリアしたものの、進学校に入ること自体を目標にしてしまっていた子の場合、入学後に目標を失って一気にやる気が消えてしまうパターンもあります。



・私立中学→公立高校「雰囲気が違いすぎる」

私立中学に通学していたが、なんらかの理由で公立高校に進学した場合、その自由な雰囲気が合わなくて友達ができずに学校がつまらなく感じる場合があります。毎日「嫌だ・合わない」と心の中で唱えながら学校に行くことは大きなストレスとなり、なんらかのキッカケでプチッと緊張の糸が切れてしまいます。

・受験の失敗「本当なら・・・」

中学時代の本来の学力では合格の可能性のある難関校受験を失敗してしまい、ランクを下げた高校に入学したパターンです。高校は受験難易度に応じてある程度生徒の層が固まります。「本当ならこの学校には来たくなかった」という思いを持ったまま通学することは、思春期の子どもにとっては大きなストレスとなります。気に入らないことがあると、それを何かのせいにして欠席をすることがあります。

3：不登校生徒に共通する傾向

私たちの長年の研究から、不登校経験生徒には共通した傾向があることを発見しました。もし以下の傾向にお子様当てはまる場合、この対応策が効果的となります。

「感受性の強い子が多い」

不登校経験生徒に多い特徴として「感受性の強さ」が上げられます。感受性の強さは小学生ごろから徐々に現れはじめ、思春期とともに強さがコントロールできなくなるのが特徴です。最近では「HSP」とも呼ばれているタイプの子どもたちです。お子様が当てはまると感じる場合は、ぜひ書店等でHSP関連の書物を購入し読むことをお勧めします。



感受性が強いと以下のような場面で学校生活にストレスを感じます

①他人の顔色が気になる

初対面や仲良くない子、先生や親の顔色が気になって仕方なくなります。特に一度気になり出すとそれが止まりません。「この人は私のことをどう思っているのだろうか？」と考えて緊張してしまうことがあります。

②陰口が気になる

クラスの中で、陰口を言うことが好きな生徒がいたとします。他のクラスの生徒の陰口であったとしても、感受性が強いタイプの子は気になりすぎて「自分も言われるのでは？言われている子が可哀想」と強く感じてしまいます。

また、先生が他の生徒を強く叱っている場面でも、その怒鳴り声や叱る姿を強烈に印象付けてしまってストレスに感じます。

③ショックを引きずる

クラスメートや先生に言われたちょっとしたことを、いつまでも引きずってしまう子ども多くいます。また、小学校や中学校時代に起こったトラブルをまだ引きずっていて、何かの拍子にそれがフラッシュバックとして現れて、死にたくなってしまうこともあるようです。

④不安を先読みしすぎる

自分でどんどん先読みをするのですが、その内容はマイナスのことばかりで不安を増大させてしまいます。「こうなったらどうしよう？」「友達になんて言われるか？」と気にして動けなくなってしまうです。



悪いことばかり
考えてしまう

【HSP】 米国の心理学者であるエレイン・N・アーロン博士が提唱した心理学的概念で、生まれつき「非常に感受性が強く敏感な気質もった人」という意味で、「Highly Sensitive Person (ハイリー・センシティブ・パーソン)」と呼び頭文字をとって「HSP (エイチ・エス・ピー)」と呼ばれています。

HSP は環境や性格などの後天的なものではなく、先天的な気質、即生まれ持った性質であることがわかっています。統計的には人口の15%~20%。5人に1人があてはまる『性質』であり、稀ではありませんが、裏を返せば、約8割の人はこの性質にはあてはまらないため、HSPの特性は共感を得ることが難しく、HSPでない人たちとの差に自己嫌悪を感じることや、まわりに合わせようと無理をして生きづらさを感じやすくなる性質といえます。

4：保護者ができること

①学校の先生としっかり話し合い**情報収集！**

まず、所属高校の担任の先生としっかりお話をしてください。これは保護者の方のみでも構いません。情報を集めることで今後の対策がとりやすくなります。以下のポイントを質問してみてください。もし担任の先生だけでは不安な時は、学年主任や教頭先生を頼ってみても構いません。

- ・あと何日欠席すると落第となるのか？（教科ごとの状況）
- ・どうしても出席できなかった場合の救済策は？
（レポート、補習など）
- ・クラス移動やクラブ変更などの環境を変えることは可能か？
- ・家庭訪問してもらえるか？



②家族で話し合う

本人以外の家族で話し合いをしましょう。主に以下の3つの方針を決めておくことが大切です。また、家庭内でどのようにお子様に対応するかは、家族の意見がバラバラにならないようにしてください。

- ・家庭内での対応（生活ルール、声かけ）
- ・A案：今の学校に戻す方法
- ・B案：転校先の検討

③転校先を探す

欠席日数が厳しくなった場合、そのまま落第してしまうと1年間のブランクが発生することがあります。もし可能であれば転校先を探してみてください。まずは資料の請求やホームページを見てからその学校に電話をして質問をすることが良いと思います。ホームページ等ではわからないことは直接聞きましょう。

直接問い合わせることで
わかることが



④専門家に相談

お母さんお一人で悩まれるケースが多いようです。一人であせってしまって空回り状態になる前に、専門家やカウンセラーに相談してみてください。解決策は生まれないかもしれませんが、**お母さんの気持ちや悩みをスッキリさせる**ことが大切です。現在、高校で不登校になってしまう子は全国5万人程度います。あなたのご家庭だけではありませんので、さまざまな意見を聞きながら冷静に進めていきましょう。

5：本人を動かそう

①原因は聞かない

保護者としては、不登校になった原因を知りたいものです。ですが、原因を問いただそうとすることは親子関係の悪化につながる可能性が増えます。**関係がこじれてしまうと動かすことが難しくなる**ので、原因は聞かずにそっとしておきましょう。本人が言いたくなくなってからしっかりと否定せずに聞いてあげてください。

②現状を伝えてあげる（冷静に！）

あと何日休めば単位が取れずに留年するのか、学校の担任の先生はどのように考えているのかなどの担任との懇談内容を伝えましょう。きっとショックを受けるかもしれませんが、冷静に伝えてあげてください。もしお母さんから伝えることが難しいようであれば、担任の先生を交えた3者懇談を依頼しましょう。

③進む方法を示す

この後、どのような方向に進むことができるか道筋を示してあげてください。その際のNGワードは「どうするの?」「あなたが決めなさい」です。ただでさえ自分の置かれている状況を知ってショックを受けているはずです。思春期の彼らに人生を決めさせるような辛いことはやめてあげてください。おすすめの声かけは「一緒に転校先の見学をしてみよう。それから決断するのも遅くない。」です。

<進む道>

パターン①：転校して環境を変える

→スムーズに転校することができると、学年のやり直しをせずに高校生活を送ることができます。

話す時には転校候補のパンフレットを用意しておきましょう。



パターン②：今の学校に戻る

→再登校をうながします。ですが、欠席日数がギリギリの場合はかなり難しい状況におかれていることを確認しましょう。

また欠席が続いた場合は、留年・休学・退学などの選択肢があることも示してください。退学後に、再度4月に高校受験をして入り直すこともできます。

6：転校を考えたら

転校を考えると最も大切なことは、**今の学校を退学しないこと**です。退学をしてしまうと高校に再入学をする必要が出てきます。スムーズに転校をするためには早め早めの行動が大切です。

<転校先の学校>

学校種別	転校難易度	メリット・デメリット
寮制 青山高校 桜丘高校	★★★ いつでも転校受入をしている。保護者同伴の見学が条件。	寮生活を利用した、転入生や不登校経験生徒をサポートするプログラムを用意している。難関大学をはじめとした大学合格者を多数輩出している。
全日制	★★★ そもそも受入をしている高校が少なく、転入条件が厳しい。	転校後のサポートはほとんどありません。授業の遅れは自分でフォローしていく必要があります。自分で学習を進められる生徒に向いています。
定時制	★★★ 受入をしている高校はあるが、時期が決まっている。	さまざまなタイプの生徒が在学しており、雰囲気合わない場合がある。卒業後の進路で大学を選ぶ生徒は少ない。
通信制	★★★ 受入をしている。ドロップアウトする生徒の受け皿	通学が可能な高校もあるが、生活習慣の改善は難しい。入学後に退学する生徒も多く、定着率は要確認。卒業後の進路も確認すること。

①まずは転校可能か問い合わせる

インターネット等で「転校 高校」と検索をして、転校が可能な学校の情報を集めましょう。見つけたら直接電話をすることをお勧めします。転校に関しては、お子様の状況によって大きく違うので、受け入れ側の学校が転校可能かを判断してくれるはずです。

<注意点>

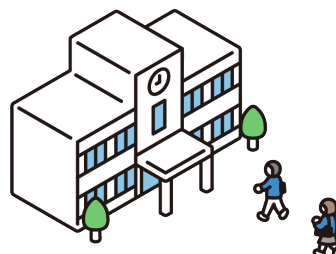
全日制から通信制は可能ですが、**通信制から全日制への転校は原則できません**。また、全日制から全日制でも、普通科→工業科のように科が違うとできないことがあります。必ず問い合わせ確認しましょう。

②親子で見学に行こう！

お子様が長期欠席中ならば、平日のお出かけも可能だと思います。親子で平日の学校の様子を見にいきましょう。転校希望の学校側が対応できるのであれば、学校の転校担当者と直接お話をしてみてください。見学するときのポイントは以下の4つです。しっかりと見学をして納得してから受験してください。

<見学チェックポイント>

- ・どんな生徒がいるか？（できれば生徒と会話）
- ・どんな教室か？（授業の雰囲気がわかる）
- ・転入後のフォロー体制
- ・進学実績（転校生の）



7：再び不登校にならないために

転校後に再び不登校にならないために、ご家庭でしてほしいことをまとめました。

①住環境の整備

新しい学校生活が始まるとストレスがたまるものです。お子様にとって心を休める場所である**お家の環境を整備**することはとても大切です。



玄関にモノが多くないですか？

<こんなお家になってませんか？>

- ・玄関にモノがたくさん置いてある → 家に入った瞬間にホッとできるように
- ・家の中がいつも暗い → カーテンや雨戸を閉め切っていると朝起きない子に
- ・お子様の部屋がいつも汚い → 週に1度は整理整頓・掃除をする習慣を

②親子関係の改善

お子様が不登校になってしまうと、親子関係が崩れてしまうご家庭があります。新しいスタートを切ったお子様を応援してあげましょう。親子関係が改善していくと、悩んだ時も真っ先に相談してくれるようになります。特に子どもの趣味を否定するようなことをせずに、一緒に楽しめるようになると理想です。**普通に接することが大切**です。

- ・毎日の声かけをしてください「おはよう」「おやすみ」だけでも構いません。
- ・子どもの趣味に興味をもってあげてください。

- ・クラブや検定で頑張ったら褒めてあげてください。
- ・たまには一緒に出かけましょう



私たちの経験上、同性の親との関係が改善すると飛躍的に成長する子どもたちが多くいると考えています。

つまり、**男の子はお父さん、女の子はお母さん**との関係改善が大切です。高校生もまだまだ子どもです。いきなり頭ごなしに否定するばかりではなく、共感できる余裕を示してあげましょう。

8：不登校体験記

不登校経験から転校をし、寮生活をしている生徒の体験談をまとめました。

■高校2年生女子「1年間を棒に振ってしまったけど」

私は中学2年生の時に1度目の不登校になりましたが、中学校はなんとか卒業し、公立の高校に入学しました。ですがそこで不登校の2回目を再発し、単位を落としてしまい、青山高校に入学することになりました。

実は、その道のりはとても大変でした。最初の高校で単位を落としてしまった時は、転校という選択肢を知らませんでした。公立高校の先生はとても冷たくて「他の高校に転校なんてできるわけない。通信高校に行くなら勝手にどうぞ。」と言われました。結局公立高校は退学して、ダラダラと1年を無駄に過ごしてしまいました。でも、このままではダメだと思い、自分を強く変えたいと考えて青山高校に高校1年から入り直しました。

不登校になったきっかけは些細な事だったと思います。朝起きれないことや、学校までの道のりに行くのがめんどくさい、といったとても小さなことで学校を休んだ後、それが繰り返されるようになり、不登校になりました。不登校になった後は昼夜逆転の生活でした。朝の4時に寝始め、昼の1時まで寝るという生活をしていました。それは眠たいという理由もありましたが、家族に会いたくない気持ちや、他の同級生が登校しているのを見たくないという気持ちもありました。

高校に行っていない時は寝てばかりいました。スマホばかり触っていると思われがちですが、スマホを触っているとSNSなどで学校に行っている同級生を見ることになり、少し辛くあまりスマホは触っていなかったことを覚えています。私は不登校のころ、家族と関わるのが億劫だったので、干渉せず、自分から動くのを待ってくれたのがありがたかったです。

私は今の学校に入って登校できるようになりました。それは周りの環境もありますが、今までできなかったことをやろうとするのは、やはり自分から頑張ろうと思わないとなかなか難しいことです。

保護者の方をお願いしたいのは、子供を無理に頑張らせるのではなく、サポートして欲しいと思います。個人に合った環境は人それぞれ違います。私は今、学校が楽しいので行けるようになって良かったと思いますが、同じ境遇で苦しんでいる人達がそれぞれ心地の良い環境を見つけて楽しく人生を送って欲しいです。

■高校2年生女子「不登校の経験はプラスに」

不登校の時の私は家で携帯をいじったり、テレビを見たりの繰り返しで何にもやる気を見いだせない毎日でした。しかも学校に行かなきゃいけないけど行けない罪悪感などが積み重なり、さらに学校という存在が嫌になっていました。しかし、母が外に出たがらない私を色んなところに連れて行ってくれたり、やりたいことを探してくれたおかげで私は今不登校を抜け出せています。

さらに、「学校に行きなさい」「なんで行けないの?」「どうやったら行けるの?」など学校に関する話題をあまり出さずにいてくれたこと、「不登校」というものを理解してくれたこと、見放さずに自分のやりたいことをやらせてくれたこと、外に連れ出してくれたこと、など不登校を抜け出した今の私だから言える感謝の気持ちも沢山持てるようになりました。

最初はなぜ学校に行かないのかを聞かれたり、外に連れていかれるのが嫌で反抗し、喧嘩したりすることもありました。ですが母が不登校について理解しようと本を読んだり説明会に行ったりしているのを見て少しずつ自分も変わろうと思えるようになりました。もし母がこんなに歩みよって来てくれなかったら、私と喧嘩することに疲れて放っておかれていたら、今でも学校に行けていなかったと思います。

最後に、私は不登校になったことを後悔していません。なぜなら、不登校になったからこそ出来たこと、考えられるようになったことが沢山あるからです。そして、その経験を活かし、立ち直らせてくれた人達への恩返しとして、学校生活を楽しみつつ、将来やりたいことに向かって頑張っていこうと思います。

■高校1年生女子「寮が不安だったけど」

私が学校に行かなくなった理由は人間関係と成績不振です。私は2歳の時幼稚園受験をしてそのまま内部進学をして小・中・高と進みました。小学校の時は問題がなかったのです

が、中学校からは外部の生徒が沢山入って来たこともありいろいろと悩みも増えて来て同時に成績も下がっていきました。焦れば焦るほどどうする事もできず、周りはこのまま順調に生活しているのに私だけどうしようと不安が募っていきました

学校の登校中に嘔吐、腹痛、頭痛が襲って来て学校に行けなくなりました。休むと「今頃みんなは何をしているのかなあ・・・私はこの先どうなるのだろう・・・」と考えていました。私がこの学校を知ったのは親が私に紹介してくれたのがきっかけです。先に親が見学に行ってくれて様子を私に教えてくれました。それでオープンキャンパスに参加する事にしました。

オープンキャンパスでは色々の人の話を聞いて楽しそうだなとは思ったものの、やはり「寮」っていうのもありすごく不安でした。その時は「このまま家にいてもいいかな・・・」と思う事もありましたが、一人になると「この先どうなるのだろう」言うような不安が押し寄せてくるので転校の方向になりました。転校して一番変わったのは生活リズムです。今までは家に帰るとお母さんがいたのに今はいません。起床時間や就寝時間、色々と変化に慣れるのに大変でした。転入した直ぐはお腹が痛くなったり、熱もでましたが今は慣れてきました。まだまだ辛い事もありますが、楽しい事もいっぱいあるから頑張っています。

■高校1年生男子「父との関係から」

僕が不登校になった理由は、父親との間にいろんなことがあって、それに疲れて学校に行く事を辞めてしまったらいつの間にか数ヶ月行っていませんでした。家に居た時はずっとスマホを使っていて楽しかったけれど、父親が家に居る時や将来の事を考えている時は辛かったです。

この学校を知ったのは家に居るのが辛くて、家を出たくて寮のある学校を捜していましたが、相談室のような所で勧めてもらったのがきっかけでした。僕はどんな場所でも試験を受けようと思っていたので、見学をしてその後試験を受けました。試験の帰り道はこれで良かったのだろうか不安になりましたが、合格だとわかった時は家から出る事ができるのだと嬉しい気持ちになりました。

転校するのは初めてだったし、入寮する日はかなり緊張しました。同じ部屋に同じクラスの転校生が居て仲良くなれて心強かったです。最初の一週間は彼とばかり話していましたが、段々と他の子とも話す事ができ今ではクラスの男子みんなと仲良くなっています。人には合う合わないがあるとは思いますが、合わない人とも会話ができるようになりたいと思っています。そしてこれから転校してくる人たちがすぐにクラスに馴染めるように話しかけてあげたいと思います。最後に父との関係も今は少しずつ冷静に対応できるようになり

つつあります。

■高校3年生男子「親への反抗」

中学校2年生ごろから、学校に行くことがめんどくさくなってきました。理由は、家庭にあったと思います。まず、親の言動が少しずつ嫌になってきました。当時は”これが反抗期というものなのかも、、”と、イライラする気持ちを押しえ込むようにしていました。そのイライラは、先生や学校の生徒の言動にも向かうようになって、それを毎日顔に出さないようにすることが苦しかったです。

「宿題はちゃんとしなさい」「塾はここに行きなさい」「進学校を受験しなさい」と親は言ってきます。中3になって数日間休みが続くとその言動はエスカレートしていきました。そうはいっても自分で決断することができない僕は、親の言いなりになって、流されるまま受験勉強をして、県立の進学校に合格しました。親のいう通りにやったら、合格できたので、そこは何も考えずにその高校に進学しました。でも、運動部に入ったら練習がきつくて、進学校だったので宿題も多くて、毎日ヘトヘトになって生活をしていました。

こんなに頑張っていたのに、、、「あれをしなさい！これをしなさい！」と、変わらずに毎日言われました。ですが、上からものを言ってくる親に反抗することもできませんでした。なぜなら親の言うことは正論ですから。

そして私は、学校に行かないということを選択しました。今思えば、これは親への反抗でした。学校を休み出すと、「大丈夫？どうしたの？」と親の心配的な部分が、どんどんと大きくなって行きました。”あんたが原因だよ！”と言いたいのですが言えず、そのまま逃げるように自分の部屋にこもってゲームをしてごまかしていました。ゲームをしている時には、いろんなことを忘れることができます。だからしばらくは中毒のようにはまっていました。そんな私の姿をみて、今度は「環境を変えてみないか？このままだと退学するしかない。人生を無駄にしてしまう。」と言ってきました。そこで見せられたのが、全寮制高校のパンフレットでした。”家から出られる、この親から離れられたい”という一心で見学に行き、転入試験を受けました。

気がつけば、私も高校3年生で、志望大学に向けての受験勉強で忙しい毎日を過ごしています。親元を離れた生活は、家庭の良さやありがたみを実感させてくれました。多くの友達や後輩に囲まれていろんなことを経験させてもらいました。あの時、見学をせずに拒否をしていたらニートのままだったと思うとぞっとします。何より寮生活で一番の変化は、親と自然に会話ができるようになったことだと思います。

■高校2年生男子「だったら休んだらわ！」

私は高校1年生の時に不登校になりました。理由は頑張ることの意味を失ったからです。今振り返ると、地元では進学校と言われる中高一貫校になんとか入学しました。勉強が好きなわけでもなく、頑張る意味も分からないのに学校に行って何になるのか。

「だったら学校休んだらわ！！！」と思ったところから、私の不登校生活が始まりました。実際に学校を休むと、楽しいこと楽しいこと、ゲーム、TV、音楽、遊びたい放題、しかし、この表面上の楽しさは、実は意味が無く薄っぺらなものだということに気付かず、結局は勝手にのめりこんで苦しいことから逃げているだけでした。当時の私は、次第になんとも言えない敗北感に駆られるようになり、それらは諦めや後悔に変わって行きました。

私の最初にして最大の挫折です。学校は、体育や行事、給食そして部活のためになら行き、それ以外をするときは、苦痛でしかありませんでした。友達の良い人ばかりで、先生だってとても親味な方ばかりでした。とても楽しかったのですが、彼らと一緒に過ごすために勉強だって頑張るやろうとは到底その頃の私には思えませんでした。寧ろどうにもならないのだから仕方がないときえ思っていました。

そんな私の転機は、今の寮のある高校に入ってからです。最初は何となく頑張るから始めて、次は評価のため、次はなぜ頑張るのかを日々考えながら、今は自分が考える理想のために頑張るようになるようになりました。気付けたもののまだものにできない。取り逃がしているものがまだまだある。これからは得られるものを得て、できることをやる。そしてできてないこともできるようになる。そうすれば、今到達できない域にいつかは到達できるのではないかと考えています。

頑張ることの意味がわからなくなった自分が、生きることの意味、人間に備わる力強さ、感謝、我慢の大切さなど、今の高校に入学してなければ、私はこれらの真価について間違いなく気づかなかったと思います。



青山高等学校（転校窓口）

〒515-2692 三重県津市白山町八対野 2739 <http://aoyama-h.ed.jp>

TEL **059-262-4329**（転校専用相談窓口/平日9時～17時）